

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200337		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう北沢 A棟		
所在地	岩手県紫波郡紫波町北沢字北沢2-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・9月より体制が変わった事もあり、現在は利用者様の尊厳についてや、生活の場である事を再確認しながら、日々の関わり方や今後介護職として何をしていくべきか、職員それぞれ目標を持って取り組み始めたところである。まだまだ至らない部分や課題が多く残されているが、他の事業所よりも質の良い、利用者様それぞれの生活に根付いたサービスを目指しています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市との市町村境を超えて間もなく、国道から少し東に入った住宅が点在する集落にある。法人は、事業所のほかに盛岡市内に2カ所のグループホームを運営しており、運営の基本的な考え方を「グループホームは、利用者の家」とし、職員は利用者の生活をお手伝いし、利用者が望まないことは行わないとしている。運営推進会議の開催にあたっては、毎年度当初に年間開催計画を示し、出席できる利用者の家族に開催の案内を行っており、家族からは、職員体制や記録物の在り方など、様々な意見が出されている。また、家族の要請を把握するため、面会時に記載する「ご訪問記録」に利用者の様子、職員の態度などをアンケートとして提出していただき、その時その時の家族の印象を把握し、ケアの気付きに活用するなど、名実ともに利用者のためのグループホームとして運営されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の介護部としての理念、現在の事業所の理念は全体会議や個人面談の場で確認し職員間で共有している。だが、実際の場面での支援に繋がるまでにはまだ至っていないのが現状である。事業所の理念に関しては今後職員で話し合い新たに作成しようと考えている。	今年9月に管理者が交代したのを機に、事業所全体の見直しを行っており、理念もその一つである。現行の理念を継続しつつ、時代に適合した事業所としていくため、法人の理念を参考にしながら、利用者には選ばれる事業所に相応しい理念を検討していくとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ過で以前に比べ機会は減ったが、地域の草刈りやボランティアの受け入れは出来る限り行っている。	社会資源の少ない地域にあり、日常の関りは近隣の住民そのものである。コロナ禍によりボランティアの受け入れは少なくなり、地域の草刈りに職員が参加し、可能な限り地域と関わる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町の高齢者安心ネットワーク推進協議会委員として町の認知症なんでも相談会に定期的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況・活動報告・事故報告を行っている。頂いたご意見には一つ一つに回答し、理解していただきながら全体のサービス向上に努めている。	町の関係者、民生委員、地区ボランティアのほか家族会から4名が参加し、近くの公民会で開催している。家族である委員からは、利用者のケアに関することが多く尋ねられ、訪問介護、畑の耕作など、家族が抱く疑問を説明し又助言を得ながら共通理解を形成する機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で町の担当者に事業所の実情を伝えている。また、役場へ行く機会もあり、その際にも相談等している。	着任間もなく、町との折衝はこれからであり、今後、運営推進会議などを通じて介護に関する地域の実情などの助言を得ながら、良好な関係を築いていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し事業所内で身体拘束にあたる行為は無いが確認している。職員全体が正しく理解していない可能性もある為、年度内に勉強会を行う予定となっている。玄関の施錠はしていない。	所長以下4名で委員会を構成し、近々全職員を対象とした勉強会を開催する予定である。開設20年以上を経過し、この間、介護についての在り方、変化について疑問を持たずにいた面もあり、スピーチロックもその一つとしている。離床センサーは家族の了承を得て5人の利用者が使用している。玄関は防犯上21時から6時まで施錠している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会、月一回の全体会議の場で勉強会を行う機会を設けている。また、事故報告を通じてカンファレンスの場で話し合ったり、身体拘束委員会でも議題の一つとして取り上げ話し合いを行っている。外部研修に関してはコロナの影響もあり参加出来ていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行った事がある職員や、以前行った内部研修に参加した職員の中には理解している者もいるが、事業所全体としては学ぶ機会を設けられていない事もあり、まだまだ理解が足りていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約の内容、事業所としての考え方を説明し、納得いただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な会話や、月一回、町の介護相談員が訪問した際に入居者から意見や苦情、要望を聞く機会を設けている。家族に関しては面会時にアンケートの記入をして頂いたり、運営推進会議に参加していただき、意見や苦情を頂戴している。	家族来訪時に「ご訪問記録」に訪問者氏名などと併せて訪問時の利用者の表情や事業所への要望等を記載することになっている。管理者は必要に応じ、家族からの要望などを職員に伝達し、情報の共有を図っている。また運営推進会議で家族からの運営上の疑問点はその場で解消している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や個人面談、日常的な会話の中で意見交換を行っている。	職員が立場の違いから遠慮することがない、話しやすい雰囲気職場を目指している。職員提案で廊下に置いてある使用しなくなった備品を「断捨離」し空間を確保することができたとしている。利用者第一の姿勢を基本としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働は適正に行われている。状況によって時間外労働を行う機会も多く、今後の課題としている。また、職員がやりがい、向上心を持って働けるよう、管理者は考え方の部分を中心にマネジメントを行っている。		

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの影響もあり、外部研修に参加する機会がなかった。内部としては、複数回、法人内の別事業所へ研修に行く機会や、管理者の方から個人個人にアドバイス等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどなかった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者様に対しては、心のある程度開いていただく事から始め、日常会話の中から思いや要望を引き出し、計画作成を中心にアセスメントを行い、ご本人の安心した生活、サービスの向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、契約時に要望や不安を伺い、それに対ししっかりと説明を行い安心してサービスを受けて頂けるよう良好な関係作りに努めている。また、面会時のアンケートや毎月の連絡文書を通じ意見交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族から状況を伺いながら他のサービスの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向をお伺いしながら接しているが、まだまだ自立支援としての取り組みは不足しており、職員主導になっている部分や先回って不必要なお手伝いをしている場面が多くみられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で難しい事も多いが、出来る限りご本人との関係が途切れぬよう働きかけや調整行っている。また、面会時や連絡文書を通じ、ご本人の生活状況を伝えたり、意見・情報の交換行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況を見極めながら、馴染みの方と面会して頂いている。馴染みの場所への外出に関してはコロナ過である事もあり現在はご遠慮していただいている。	コロナ禍による面会制限を少しずつ緩和できるようになったが、利用者の実家への一時帰宅はまだ見合わせている。利用者の要望により実家へ電話をかけることもある。携帯電話を所持している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティもあり、様子を見ながら孤立していたり、関わりが必要な方は職員が声を掛け関わらせて頂いている。また、元々他の入居者との関わりを希望されていない方もいる為、そういった方は職員との関わりを主とし支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係性が閉じてしまう事が殆どだが、現在の状況をお知らせしていただく事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での会話や行動、表情等からその人の思いを汲み取り検討している。また、ご自身で表現できない方もいるので、そういった場合は過去の生活歴やその時の行動を見ながら汲み取っている。	方針として、「施設は利用者の家であり利用者は主人」と位置づけ、利用者の意向に即した介護を旨としている。意向の把握に当たり、職員は介護計画に掲げている「私の願い」の5項目である私の安心、私の力の発揮などに沿った意向をくみ取り、日々の「生活記録」に記録している。居室担当制ではなく、全職員で思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族のお話を伺い、入居後も折に触れ本人や家族、その他の面会者から情報を集めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で変化や発見があれば個人ケースや日誌に記入したり、カンファレンスの場を利用し共有に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、家族や本人の希望を伺い介護計画を作成している。	計画の見直しは、3ヵ月毎に行なっている。職員全員がカンファレンスに参加出来るよう、対象利用者の状況等を記載したものを提出している。利用者のニーズを「私の願い」として、私の在り方(〇〇が好き)、安心(家族)、力の発揮(〇〇をしたい)、安全・健やか(体調)、暮らしの継続(好きなこと)に分類し、次の期間の目標に掲げている。家族の同意を得て成案としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の暮らしの様子、話された事、ケアプランの実践状況等を個人ケースや日誌に記入したり、申し送りや情報の共有、確認を行っている。また、それらは介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の状態、状況を見ながら必要と考えられる支援を検討、見直ししながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過ということもあり、地域資源の活用は十分に行えていない。今後はコロナの状況を見ながら検討し支援の一部に繋げたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは適切な医療を常に受けている。かかりつけ医との関係も良好。	入居者の大半が訪問診療を受診している。最近になって訪問看護ステーションも診療医の系列に変更し、相互の連携が取れるようになった。入居前から受診していた町内のかかりつけ医に家族付き添いで通院している人も数名いる。歯科の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週に一度、定期訪問を受けている。相談助言もいただいている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の支援に関する情報を医療機関に伝えている。また、退院直前から情報交換を行い利用者が安全に暮らせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される方は、早めに家族へ意向を確認し、段階が進むにあたり更に話し合いを重ねている。	開設後数年して看取りを始めており、これまで15人前後の方を看取り、今年は3名の方の看取りを行った。職員はほぼ全員看取りの経験を有している。利用者家族との協議は時期を失することなく行っている。医療行為が必要な場合は医療機関に搬送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練は毎年行っていたが今年が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行っているが、今年はまだ1回しか出来ていない。	年2回の避難訓練を定例化しており、今年8月に夜間想定訓練を実施し、反省点として声かけに時間がかかったことが挙げられた。年度末に車イスなどの冬季の避難経路の再確認を予定している。地域の方々の支援要請は関係性を作りながら進めるとしている。	冬季に向けた避難訓練では、車イスでの避難経路の確保と地域の方からの協力を得る取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けは意識し行うよう管理者からも指導し心がけているが、まだまだ配慮が足りなかったり、不適切な場面もみられ、気付いた都度に注意し、どのような声掛けをすれば良かったか職員に伝えている。	利用者の尊重、尊厳に対する認識に職員により差異があり、何気なく発している言葉に尊重やプライバシーを損ねる傾向がある。全体での研修が必要と管理者は考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で決定できるような声の掛け方を工夫している一方、まだまだ職員主導になっている声掛けや働きかけがみられている為、現在指導している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前に比べ職員側の決まりや都合を優先する部分は少なくなっているが、まだまだ徹底されていない為、今後の課題としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは入居者の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	頻度は少ないが、一緒に調理を行う事もある。片づけは一緒に行うことが多い。	現在は、三食とも献立は職員がつくり、夕食のみシルバー人材センターに調理をお願いしている。利用者本意の食事とするため、法人内の2箇所の事業所と同様に、職員が利用者から意向を聞きながら調理したいと管理者は考えている。コロナ禍により、敬老会は所内での会食会とした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けをしながら、なるべく好きな物を飲んで頂いている。摂取量が少なめの方もいるが、ご本人の意志を尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛けさせていただき個人の能力に応じ見守りやお手伝いを行っている。無理強いはない。必要があれば訪問歯科の診療に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なおむつ着用は行わず、トイレにお誘いし行っていただいている。	昼間は全員がトイレを使用し、夜間は4名がおむつを使用しているほかは、リハビリパンツ、布パンツを使用しトイレで排泄している。排泄の自立が目に見えて進んだ方はいないが、現状を維持できるよう支援している。夜間の離床センサーは5名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に日常生活の動きの中で声掛けをしながら動く機会を増やしている。オリゴ糖入りのヨーグルトを飲んで頂いている。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間に関しては事業所側の都合になってしまっている部分が殆どだが、希望があれば柔軟に対応している。	A棟は午前、B棟は午後2、3日毎の入浴とし、希望があれば夜も入れるようにしている。B棟は個室だがA棟の浴槽にはリフトが備え付けられ、弾力的に使用している。入浴は利用者じっくりと話ができるいい機会である。なお入浴時には、皮膚疾患等の有無も確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見ながら声を掛けさせていたっている。休む際には室温・明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員皆で確認・共有し、副作用や、その後の経過について様子みている。また服薬が終わるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った支援はなかなか出来ない。もっと関わり合いながら、その人の有する力を活かした支援をしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で遠出の外出は行えず、ドライブの頻度もあまりなかった。今年は何度か近所を散歩したり、月見をする機会を持てた。	コロナ禍に加え加齢とともに、事業所周辺の散歩も少しずつ億劫になってきているのか、戸外に出る機会が少なくなってきている。そのため、十五夜のお月さんを外に出て皆で眺めたことが余計に印象深いとしている。以前のようにドライブには出掛けていないが、煙山のみまわり畑や佐比内の紫陽花ロードに見物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の入居者がお金を所持しているが、管理が難しくなってきたこともあり、現在は事業所でお預かりし保管している。お金を使用することはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りは自由に出来るようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日光の明るさ、テレビの音量、室温等に配慮している。	両棟の中央にそれぞれの厨房があり、A棟、B棟が対照的に配置されている。床暖、エアコンと空気清浄機でホールは快適に空調され、南向きの窓側にはテレビを置きその脇の本棚に雑誌が整理整頓され並べられている。利用者は思い思いの場所で過ごし、A棟の広い廊下にはソファが並んでいて、一人で居ることが好きな利用者の居場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名の入居者は自室以外の居場所があり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態にもよるが、出来るだけ使い慣れた馴染みの物をお持ちいただくよう提案し、居心地よく暮らせるように努めている。	ベッド、エアコンが備えられ、両棟とも端の部屋にはトイレが設置されている。1間の押し入れと簡易クローゼットには着替えや小間物が整理され収納されている。壁には敬老の日いただいた色紙が飾られ、ベッドの脇に置かれた来客用の重厚な木製の椅子は、この部屋の主が歩んできた時間の重みを感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお部屋に分かりやすいよう張り紙を張ったり、ご自身が使用するものに名前を表記している。		